

平和について考える

3年生の道德の授業で広島原爆についてお話をしました。図書室には広島について書かれた本がたくさんあります。その一部を紹介します。

「さがしています」

アーサー・ピナード作 童心社
1945年8月6日の朝、ウランの核分裂が広島で引き起こしたことは、どこまで広がるのか？ピカドンを経験したカタリベたちは、さがしています—たいせつな人びとを、未来につづく道を。ヒロシマから今をみつめる写真絵本。

「夕風の街 桜の国」

こうの史代作 双葉社
昭和三十年。灼熱の閃光が放たれた時から十年。ヒロシマを舞台に、一人の女性の魂が大きく揺れた。最も弱者たちにとって、戦争とは何だったのか、原爆とは何だったのか……。

ワタシゴト

中澤晶子作 汐文社
修学旅行で広島平和記念資料館を訪れた5人。それぞれに悩みを抱え、戦争とは遠い世界で暮らす14歳の胸の内は……。登場人物に共感を覚えながら、物語に登場する被爆資料などを通して平和について深く考えていく作品です。

14歳のヒロシマ

梶本 淑子作 河出書房新社
1945年8月6日、私は14歳で被爆した——いま戦争をしている人たちは「何もわかっていない」。平和な世界のために何ができるのか。ヒロシマの被爆者が伝えたい戦争と平和のはなし。

本が図書室に来るまで



図書室の本は年に二回、夏と冬に司書担当の先生と図書整理員が生徒のリクエストを見て、ブックカタログから中学生に必要な本を選書します。そして市役所でさらにチェックを受け、TRC(図書館流通センター)に注文をします。(届くまで約3週間かかります)本は年々貴重なものとなっています。大切に扱ってください。

督促状について

4月から借りてまだ返していない人がいます。図書室で「あの本が読みたいけどありますか？」と問い合わせがあります。特にシリーズの本の1冊を借りたままにされると、その本全体の貸し出しが止まります。1か月以上返ってこない時、督促状というお手紙を出しています。五中生みんなの本です。速やかに返却しましょう。もし、紛失したら必ず届けを出してください。

